

各設置校の開校・開学年

1924年(大正13年) 8月	自動車運転技能教授所 設立 ※本法人の創設
1953年(昭和28年) 4月	北海道自動車短期大学 開学
1955年(昭和30年) 9月	北海道電波専門学校 開校(1987年 北海道電子専門学校 校名変更 ~2009年まで)
1956年(昭和31年) 4月	北海道工業高等学校 開校(2001年 北海道尚志学園高等学校 校名変更)
1967年(昭和42年) 4月	北海道工業大学 開学
1974年(昭和49年) 4月	北海道薬科大学 開学

2014年~2024年 100周年に向けた各年ごとの主な取り組み

2014年	学園創立90周年 100周年に向けた活動が本格的に始動 学校法人北海道尚志学園を学校法人北海道科学大学へ法人名称変更 北海道工業大学を北海道科学大学へ改称 北海道自動車短期大学を北海道科学大学短期大学部へ改称
2015年	北海道科学大学短期大学部(札幌市豊平区)及び北海道薬科大学(小樽市)が前田キャンパスへ移転
2016年	北海道科学大学大学院工学研究科(博士後期課程)工学専攻開設(既存4専攻を再編) 北海道尚志学園高等学校を北海道科学大学高等学校へ改称
2017年	北海道科学大学高等学校 学科再編
2018年	北海道薬科大学が北海道科学大学と統合 北海道科学大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻・リハビリテーション科学専攻・医療技術学専攻(修士課程)開設
2019年	100周年記念事業実行委員会発足
2020年	北海道科学大学大学院保健医療学研究科(博士後期課程)保健医療学専攻開設 北海道科学大学公衆衛生看護学専攻科開設 HUSサポート株式会社設立(本法人100%出資会社)
2020年	第2期中期事業計画
2021年	保健医療学部入学定員を変更(2020年4月、収容定員変更申請予定)
2022年	100周年記念会館 竣工(図書館の改修)
2023年	北海道科学大学高等学校が前田キャンパスへ移転
2024年	北海道科学大学 法人創立100周年



北海道科学大学 法人創立100周年特設サイト

<https://ed.hus.ac.jp/100th/>



2040年 • HUSグランドデザイン2040



学校法人北海道科学大学

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-681-2161 FAX: 011-688-7639
HP: <https://ed.hus.ac.jp>

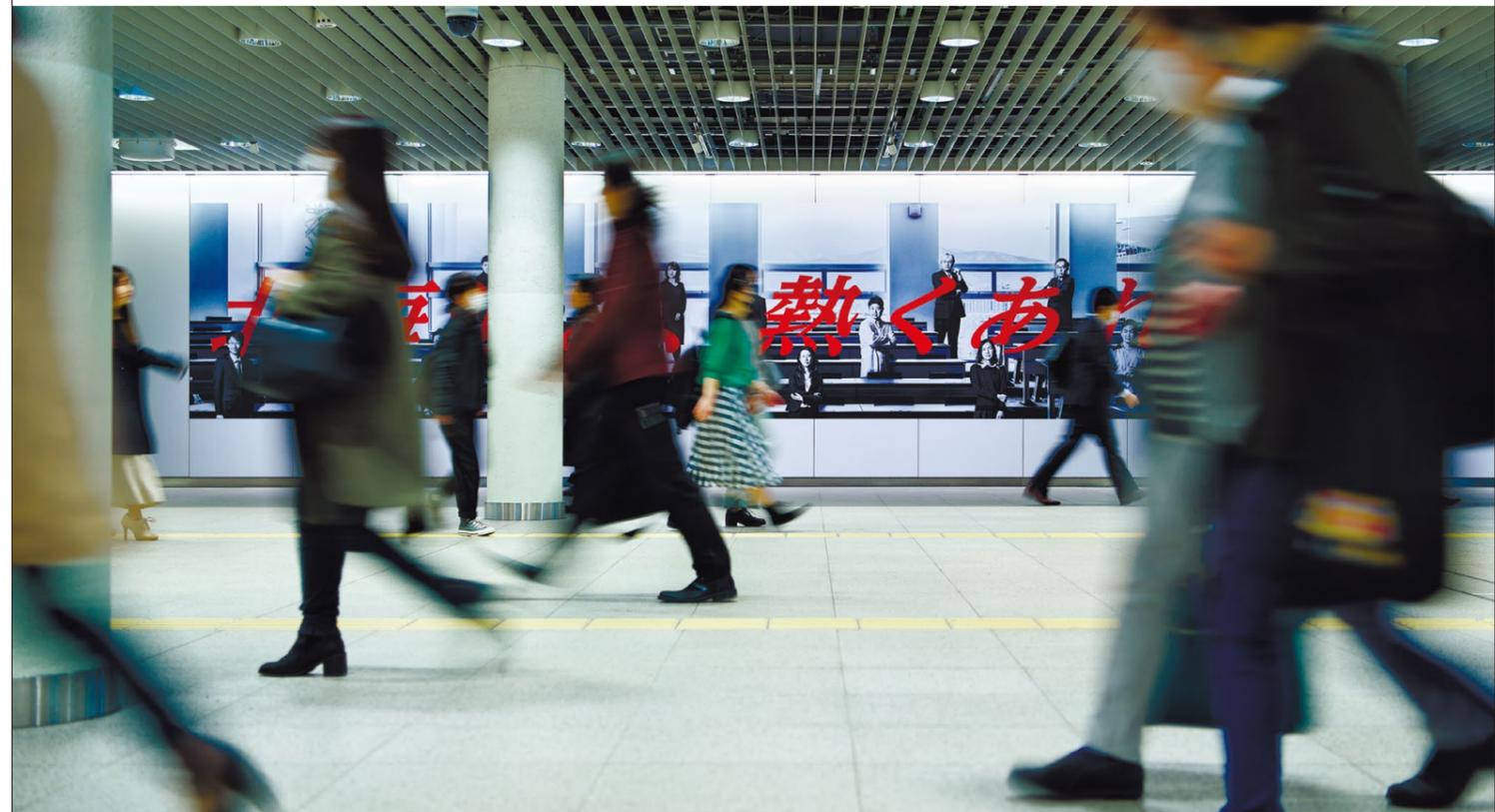
企画編集・発行: 学校法人北海道科学大学

+Professional

ヒューマンティ、コミュニケーション能力、問題発見・課題解決能力、マネジメント能力といった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。
すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

北海道科学大学
北海道科学大学短期大学部
北海道科学大学高等学校
北海道自動車学校
北海道科学大学附属薬局

北海道よ、熱くあれ！



第2期中期事業計画(2020-2024)



100th Brand vision

2024年までに、基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域

と共に発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。

学校法人北海道科学大学では、100周年ブランドビジョンを実現するために、さまざまな組織改革とグループアクションを起こして参りました。100周年までの5年間で「第2期中期事業計画(2020年～2024年)」期間と定め、中でも100周年に向けた重点改革事項として、下記事業を実施します。

重点改革事項

高大一体型教育の実現に向けた、高校の前田キャンパス移転

「高大一体型教育」の実現に向け、2023年4月、北海道科学大学高等学校は手稲前田キャンパスへ移転します。

本法人が推進する「高大一体型教育」とは、高校と大学を持つ、本法人のスケールメリットを最大限に生かすもので、大学のさまざまな資源を高校生が日常的に活用することで、気づきや自主性、可能性を大いに育む、新しい教育スタイルのことです。

重点改革事項

Society5.0に対応した、データサイエンス教育の展開

4学部13学科を擁する実学系総合大学に学ぶ5,000人の教育を更に高める教育改革

重点改革事項

100周年記念会館による能動的学習の推進

▶ 進路希望に基づくコース設定と主体的な学びの追求

進路希望実現を第一とするカリキュラムの編成。ICTも活用した主体的・協動的な学びを実現する授業の創造。

▶ 高校と大学間の単位相互認定

北海道科学大学への進学希望生徒を対象とする大学教員による講義の受講(3年生後期)。取得単位の高校と大学による相互認定。

▶ HUSスタンダード教育プログラム

社会が求める基盤能力(ヒューマンティ、コミュニケーション能力、問題発見・課題解決能力、マネジメント能力)をすべての学生が身につけることが可能な全学教育プログラムの再構築。

▶ 全学部でデータサイエンス教育の実施

予測不可能な時代を生き抜く力を持つ新時代の人材育成を全ての学生に提供。

北海道科学大学高等学校

高大一体型の教

育改革を進めます

北海道科学大学

▶ 体験を重視した学びと高度な情報教育

グローバル教室における教科横断的な学びの創造。短期・長期の留学の推進。大学を活用した高度な情報教育。

▶ 斬新な校舎による潤いと多様性溢れる高校生活

つながりと開放性を重視した新しいコンセプトに基づく校舎が生み出す多様な学び。大学の図書館や運動施設・食堂などの共用。

▶ 本学ならではの専門教育

AI・IoT、先進モビリティ、臨床現場のニーズなどに応じた最先端の学びを提供。

▶ HUSコンカレントプログラム

高校在学中に大学レベルの学びを体験し、高度な学びから大学生生活へのステップを踏む高大接続プログラム。

北海道科学大学高等学校 校長 橋本 達也

北海道科学大学グループの入口に立つ本校は、2023年4月、キャンパスを豊平区中の島から手稲区前田へと移転し「高大一体型教育」という新しい教育活動を展開します。

これまで行われてきた高大接続・連携は、高校生活の一部を切り取る「非日常型」が主流でした。しかし、私たちが実現する「高大一体型教育」とは、大学のキャンパス内に校舎を構え、大学の様々な資源を高校生が日常的に活用することで、生徒たちの「気づき」や「自主性」「可能性」を大いに育む新たな教育スタイルの構築です。高大一体型教育を通し、生徒たちは、北科大に自分の目標を見つけ、高大の7年間(薬学部は9年間)、またその先の大学院までを見据え、じっくりと自己実現を図ることが可能です。その一方で、本校での学びを通じて広く全国や世界に羽ばたいていこうとする生徒が続々と現れてくれることも望んでいます。自分の未来や将来について、大いに悩み、最後は自分で選択する、そんな豊かな3年間が過ごせるキャンパスを実現したいと考えています。



北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部 学長 渡辺 泰裕

北海道科学大学では、工学、薬学、保健医療、デザインといった専門的な学びの基礎として、ヒューマンティ、コミュニケーション能力、問題発見・課題解決能力、マネジメント能力の基盤能力を身につけることを、私たちのスローガン「+Professional」に込めてきました。今後はこれに加え、新たな学びの基礎として全学一斉にデータサイエンス教育を導入したいと考えています。理系・医療系の学問分野では、これまででも実験や観測から得られるデータを解析する力を身につけてきましたが、例えば、社会、医療、行政の中にあるデータを解析し価値を引き出せるような学びを考えています。

わたしたちの目標は、北海道が求める実学系人材の育成を進めていくことです。そのためには、学生の皆さんにとって満足度の高い教育を提供し、社会が求める人材輩出につなげていきたいと考えています。



100th Brand vision

100周年ブランドビジョン

100周年ブランドビジョンの達成に向けて

学校法人北海道科学大学 理事長 苦米地 司

地方における大学の役割というのは、地域で学んで地域に就職する「地学地就」の教育です。しかし、北海道の経済が成長しなければ、若者たちの流出を止めることはできません。北海道が活力ある地域へと発展するためには、地域の課題を見つけ、産業構造やニーズを知り、その地域にとって必要な人材を輩出する必要があります。「北海道に貢献する人材が増え、産業が発展し、魅力的に成長していく」教育機関はその「良い循環の起点」になります。北海道をもっと活力ある地域にするための人材教育を高校からスタートする、それもまた高校移転の大きな目的のひとつです。

これからの北海道が「縮小する」のではなく、魅力的な大地へとさらに「発展」していくために、北海道をフィールドに北海道の実学を支える教育機関として、世界と闘える場を作りたいと考えています。100周年のブランドビジョン「北海道No.1の実学系総合大学」を実現し、なおいっそう社会からの期待に応えるために、今後の教育改革を力強く推進していきます。



学校法人北海道科学大学の経営理念

新しい価値を創造する実学系教育を通じ地域社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く、北海道の発展に寄与する人材を育成する。

新しい価値を創造する— 一人々の暮らしを快適にし、幸せ・喜びを共有できるミライを生み出すこと

実学系教育を通じ— 地域の人々の暮らしを支える「人材」「学び」「知識・技術」をつなぎ合わせ、共に学び、主体的に考える教育体験を提供すること

地域社会からの期待に応え— 地域の様々なコミュニティとパートナーシップを築き、北海道が抱えている問題に真摯に向き合い、取り組むこと

一人ひとりが輝く— 「得意・専門性」を生かすチームづくりによって、イキイキと学びあう・成長する組織・文化をつくること

北海道の発展に寄与する人材を育成する— 北海道の発展に寄与する材料(データ)を切り口に、協働による成果を生み出す「+Professional」人材を育成すること

HUS Data

HUSデータ



HUS Grand Design 2040

HUSグランドデザイン2040

本法人は創立100周年を迎える2024年以降も、これからのより良き社会の創造と持続的発展に貢献することが必須と考えています。

そこで、高等教育機関の3本柱である「教育」「研究」「社会・地域貢献」を持続可能な開発目標(SDGs)と連動しながら、

社会環境の変化を踏まえた、新たな将来像・運営方針として「HUSグランドデザイン2040」を策定。

地域を活性化させる教育機関としての役割を果たすべく、人々の暮らしを支え、持続的な社会の維持・発展に寄与します。

3つの柱を支える経営基盤

財務

- 長期的視野による財務戦略の確立
- 管理会計による支出内容の質向上
- 学生生徒納付金以外の収入源の多様化による財務基盤の安定化

キャンパス

- 多様な人との交流を生み出すキャンパス
- 教育環境の持続可能な発展と整備

コミュニケーション

- ステークホルダーの理解・共感を得る情報発信(=USR)
- 本学の強み・特色の理解につながる広報戦略
- 広報マインドの醸成
- 同窓生との緊密な連携による学びのサポート

すべてを支える組織・人事

組織

- 時代の変化に応じて自ら変革できる組織(人材育成・キャリア支援)

教員

- 個の資質向上と組織的教育・研究体制の強化

職員

- 自ら+Professional職員を体現、エンプロイアビリティの向上、主体的なキャリア形成

持続可能な開発目標(SDGs)の達成への貢献



第1期中期事業計画
2015-2019

第2期中期事業計画

2020-----2024

第3期中期事業計画
2025-2029

2030

第4期中期事業計画
2030-2034

第5期中期事業計画
2035-2039

2040

100周年ブランドビジョンの達成

建学の精神・教育理念・経営理念

研究

教育

社会・地域貢献

財務・キャンパス・コミュニケーション

組織・教員・職員

高等教育機関の3本柱

研究

大学の4学部を中心とした専門分野を更に深化させるとともに、統合されたキャンパスの優位性を最大限に発揮し、イノベーション創出のための学部・学科の垣根を越えた研究を推進。得られた研究成果を社会のニーズや社会の問題解決のために展開し、成果を生み出すことで、Society5.0の実現に貢献する。

教育

北海道の発展に貢献してきた高等学校・大学を設置する法人としての特色を生かした教育を展開。高等学校では、科学(基盤能力の核となる能力・スキル)、情報(プログラミング、ITスキル)、語学(日本語及び英語の読解力、留学などの体験を通じたコミュニケーション力)を文理で区別することなく身につけさせるとともに、大学では多様で柔軟な実学系教育プログラムにより、高度な教養と専門性を併せ持ち、各専門分野において先導的な役割を担い、北海道を中心とした地域社会の持続可能な発展・成長に貢献する「+Professional」な人材を養成する。

社会・地域貢献

各設置校の教育指針及び教育の特色などに基づいた人材養成により、地域活性化の担い手を社会に輩出することはもとより、大学をはじめとする各設置校が、地域に根付いた教育・研究活動などを通じ、様々な場面で地域とのパートナーシップを構築・強化する。

第2期中期事業計画

100周年に向けた重点改革事項

▶ 高大一体型教育の実現に向けた、高校の前田キャンパス移転

▶ Society5.0に対応した、データサイエンス教育の展開

▶ 100周年記念会館による能動的学習の推進

戦略事業

I 教育の質向上

基本理念「科学的市民の育成」、「プロフェッショナル教育の推進」を引き続き堅持し、学修者本位の教育への転換をより一層推進する。高等学校においては、新学習指導要領に準拠した教育の展開により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とする。

- データサイエンス教育
- 教学マネジメントの確立(入学から卒業までの一貫した支援、基礎学力向上プログラムの実施)
- 臨床現場のニーズに対応した教育
- 先進モビリティに関する科目群
- 多様なグローバル体験と世界に向き合う人材の育成(高校)
- HUSコンカレントプログラム(大学レベルの学びを高校在学中に体験)

II 研究活動活性化

本学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図る。

- 新研究所(CRILS)の設置による医・薬・工連携の推進(大学統合によるシナジー効果)
- 補助金連動型アライアンス強化
- 科研費獲得強化

III 社会貢献

地域社会の核として、産業界や地方公共団体と共に、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指す。

- 地域医療への貢献を目指した道内地方都市における実習の推進
- 看護実践・教育・研究に関するユニフィケーション事業の実施
- 「自由研究といえば北科大」小・中学生対象に科学や学問への興味を喚起させる体験イベントの実施

IV 経営強化

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通教育研究組織、事務部門の簡素・合理化など)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をI、II、IIIの重点領域に再配分及び集中的に投資する。

- キャンパス再整備計画(第2期)
- 寄付金募集事業
- 100%出資会社の設立
- 高校の前田キャンパス移転の戦略的広報(系列大学の魅力発信など)
- 教職員の健康維持・増進プロジェクト
- ICT環境整備(高校)

V ブランド推進

信条として掲げた「+Professional」「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動並びに地域貢献活動などの個別の取り組みを一貫したストーリーとして、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図る。

- 同窓生との連携強化
- 100周年記念事業の実施
- ホームページの全面リニューアル
- インフラ映えフォトコンテスト開催

経常的教育活動

● 設置校及び部局など(学部・センター・事務局)における、「経営理念・ビジョンに基づいた目標」の達成につながる事業

● 一人ひとりの教職員が日々の業務において上記を意識し取り組むアクション